

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	カナリアの家ファミリア
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	長崎県佐世保市白岳町1398-8
記入者名 （管理者）	松田京子
記入日	平成19年12月25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている ホーム入り口に大きな模造紙で手作りで書いた運営理念をかかげている。	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる 大きく書いた運営理念が見える所に貼っている。スタッフいちがんとり日々取り組んでいる。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる 家族の方には入居時に説明を行い理解をえている。	○	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている 散歩時や買い物時等、あいさつを行い出来るだけ顔を覚えてもらうように声かけを行っている。	○	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている 地域の夏祭りに参加したり、ゲートボールに参加したりしている。又出来るだけ参加するようにしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	新聞の発行時にホームでの介護相談の受け入れ等を書いていつでも相談に対応出来る体制に取り組んでいる。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施し、結果を職員会議ではなしあったり、又運営推進会議にて家族などに伝達し改善に努めている	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており家族も積極的に参加してもらい話し合いの場を設けている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	これまでの運営推進会議に市の担当者が2回程みえていつでも来てもらえることをお願いしている。	○	立ち寄ってもらえる様に手紙等をだして行きたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今の所入居者さんにそのような制度を利用されている人がいない	○	スタッフ一同制度の理解や活用について勉強していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講演会等の講習に積極的に参加し虐待防止に心がけているし、スタッフ同士話しあいをしている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時にその都度説明を行い理解を得ている	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族からのいかなる相談についても誠意を持って対応し必要な援助を行っている。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会等に来られた時に日頃の状態の報告を行っている。 金銭面では請求時におこずかい帳のコピーを渡している、又おこずかい帳に家族のサインをもらっている	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等に見えた時に聞いたり、運営推進会議が終わったあとで鼓族の要望等を聞きその旨スタッフで話し合いをもうけている。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を聞き働きやすいように心がけている。	○	年に1度の昇給があったり有給が使えるときにはその都度使えるようにしている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来るだけ無理の行かないようにシフトを考え、本人の休み等の希望を聞き入れている。無理のない様に考えて対応している	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は出来るだけしないようにしているが何年々ごとには行っている。	○	職員の移動により新鮮な雰囲気も味わえる時もある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会がある場合、なるだけ行ける様資料や情報を職員に伝え機会をもうけている。	○ 認知症のお年寄りの介護だけに、目を向けないで口腔ケアの事、薬の処方の事、中堅職員としてのホームでの仕事、心がまえ等の話を聞けて良かったと思いました。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間の連絡協議会からのファックスを受け管理者やそれに従属する職員には研修や勉強会の機会を持つようにされている	○ グループホーム間の相互訪問の機会を作ってもらい、より一層の向上につなげたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の身体の調子がおもわしくない時は休暇や入院等を進め、職場に復帰出来る様心づかいをされている。	△ 一人の職員が急な用事(身体の事も含めて)ができてお休みを頂く場合、皆に迷惑をかけてしまい申し訳ないと思う。短時間でも変わりになるスタッフがいてくれたらと思う。
22○	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就職してから、ある期間は非常勤の職員でも、まじめに仕事に取り組む頑張っている職員とみなされた場合、常勤の正職員として上げて頂き、より一層努力して行こうという気持ちになっている。	○ 昇給、賞与もあり有難いと思う 職員一人一人の身体の事を、いつも気にかけてもらっている。声かけをされると頑張っていると思う
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	昔住んでいた場所が自分の暮らす所だと、強く思われ帰宅願望の強い方については、電話で家族と話しをして頂き、少しずつホームで皆さんと生活をしている事に慣れて頂くよう、「話す機会」を多く持っている	○ 帰宅願望が強い方については一時的入所当時不穏が続かれるが、日々の声かけ、他の利用者さんと仲良くなれる様、入所の日挨拶をしてもらって、少しでも蟬りを少なくしている。職員も多く声かけをしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に一個人の生活から他の皆さんとの共同生活であるという事を前提にし、家族に説明、理解を得る様に話し「どういう風にかれから先の生活を送って欲しい」のか大きなニーズ、希望を言っている	○ 例えば甘い物が大好きな利用者さんの場合、一日に2回お茶の時間に菓子を出すこともある。一日3回の食事でバランスよく、主食をきちんと摂る様にする為、偏った食べ方をしないように話し合いの場をもうけている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での問い合わせに対しては出来れば施設の見学をつたえたり、また本人や家族も含めて見学に見える場合は家族がよく把握されて帰られる。電話での説明よりは実際に来所されるホーム等の雰囲気を見てもらいたい。	○	今のホームの状況では難しいかもしれないが、1週間程度慣れてもらう為に短時間のホームでの生活を体験してもらえたらと思います。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは家族のある方は、最初のうちは安心される様随時来て頂いたり、職員、他の利用者さんへ馴染める様その方を一人にさせない事も必要だが、あまりかまひ過ぎない様な関わり方を工夫している	○	入所して1週間ぐらいいは、その方の毎日の生活ぶりをよく観察し、外向的な方でもかなり緊張されているので、まわりの利用者さんとの関わりが早く持てるよう性格等の配慮から、食事の時の席を検討している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人の話を聞く、感心を持つ、質問をする、学べる事はよく聞き真似をしたり、活用したりしている。毎朝の挨拶、帰る時の挨拶をおこたらずに行い、明日につなげている。	○	字を書くのが好き、上手い、俳句等もノートに書いて楽しんでいる方に「今日は何の日」「献立」のボードを毎日書いてもらっている。誕生会の時、お祝いの言葉、お礼の言葉を言って頂くようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	身体的な事、精神的な事の変化等、家族に随時伝えている。必要がない時は、経過を説明するまでもないが、来所された時はお話をする様努力している	○	ホームは共同生活の場である。他の方の迷惑やしてはいけない言動については本人のプライドを傷つけない程度に話をし皆さんが安心して集まり、食事を共に出来る様、本人さんに理解をして頂くように努力している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の家族に対する思い、家族の本人に対する思いをよく聞き不満や遠慮等の見えない部分もくみ取る努力をして、職員一人一人が知っておくように申し送りしている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔よく行かれていた理髪店に行ってもらっている。息子さん娘さん等に面会に来て頂いた時は、今頃の暮らしぶりや健康状態を伝えている。家族に何時でも来てもらえる雰囲気作りに努めている。	○	利用者さんの髪がのびたらホームに面会かたがた来ますという理髪店の方、車椅子でないと外出できない方についても昔から行っていた理髪店にスタッフが送迎をし継続している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	家事の手伝いや洗濯物たたみ、干し等色々な手伝いをまんべんなくして頂くようセッティングしている。楽しく役に立っているという満足感を得られる様、手伝いの取り合いにならない様職員が声かけをしている	○	口数が少なくあまり発言されない方はなるべく職員から一つでも二つでも手伝いをお願いし、感謝の気持ちを表している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用 (契約) が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現実的には契約が終了した場合、家族からお世話になりましたとお礼に見えられる事はあっても関係はそれで終わっているし、その後の付き合いがない利用者さんが多い	△	終末ケアを希望される家族が増えている昨今、「あのホームで良くして頂いた」と家族に言って頂ける様、身体的にレベルがおちたりされても、入院搬送の日まであるいは亡くなるその日まで職員一同取り組んで行きたい
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望はかならず本人さんに聞いている。誕生日等にはその方の好きなメニューを聞き取り入れている、又献立を立てる時何を食べたいか尋ねて立てる事もある。	○	シーツ交換等で居室に入る時など黙って入らない様に本人さんに声かけを行いトラブルのないよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若いころの仕事や何に興味を持っているのかを会話の中で拾い出したり入所される時の家族の話や、施設からの入所の場合は資料等の活用等も入れて、無理のない生活スタイルに心がけている。	○	習字、工作、園芸等楽しんでもらうよう、職員が全部を作りあげないで、好きで出来る方には手伝いをお願いし満足して頂くよう努力している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の過ごし方の中で各人が何か得意又は好きなのかを把握するよう努力している。長く続けられる様に声かけセッティングし皆さんが楽しんでやれる様日々努力している。	○	排便がスムーズに出来る様、毎朝牛乳を飲んでもらっている。又水分摂取等にも声かけをして飲んでもらっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人にまずどのように暮らして行きたいのかを聞いている。月に1回の職員会議でケアの見直しをしてプランを立てているケアプランを作るにあたってその時に状況が変化されない方については状況説明等を伝えるのみになっている。	△	本人が興味を持っている事等を家族に尋ねたり、本人にも了解、納得が得られる内容のプラン作成に努力している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族に随時話し合いの機会を持ち、現状に即したプランを作成している。本人への同意とまでは行かない事が多い。認知度が高い場合は特に難しい。	△	薬の処方によって、今までの生活ぶりがよく夜間眠れる。興奮やうつ状態が多い方も日中落ち着いた生活ができる事があるので、家族に薬の処方による変化等は報告している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のケース記録に日々の様子や訴え、ケアの実践を記入し、ケアカンファ等に活用している。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況等はその都度家族が見えた時に伝えたりしている。状況に応じて本人さんの希望や家族の要望等を受け入れている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向等に応じて、地域団体との交流（催し時等のボランティア要請や受け入れ、ゲートボールへの参加等）を行っている。また、定期的消防訓練を実施。地域催しへの参加も行っている	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームの連絡協議会でのブロック会議等に参加し、他の管理者やケアマネさんとの交流を行い情報等を聞き支援している。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ協働はしていない		これから地域包括支援センターを利用していきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝（日、祝除く）医師への申し送りを行い状態変化時にはすぐに連絡を取れる体制を取っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状態変化時等、その都度医師に連絡、相談し指導を仰いでいる。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護職兼務である。またかかりつけ医の往診、週1回も実施している。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時はかかりつけ医が事前に連絡、情報交換を行われ、スムーズな連帯が取れる体制を整えている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実例あり。早期より家族、医師、スタッフが連携を取り合いターミナルケアにあたった。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルについて、早い段階より医師、家族との連携のもと、ケアの方向性を話し合い取り組んできた。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居、退去時には、本人の状況、性格等、十分に考慮し、関係先と情報を交換しながらダメージが少なくなるように努力している。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時等周りに気づかれない様な声かけをしている、又居室にてポータブルトイレ使用の際、ドアを閉め行っている。	○	
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人さんの希望に応じ買い物に同行したり、本人さんが希望されるおやつを買ってきている。	○	
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞き好きな事(ビーズ作りや歌をうたう)等をしてもらい週1回ゆっくりした時間を過ごしてもらうようにしている。	○	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの理容店がある方かスタッフが送迎し行ってもらっている。 又は職員が定期的に散髪を行っている	○	
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備等の声かけをしたり、盛り付けや味見等もしてもらっている。お盆拭き等進んで声かけしてもらっています。	○	
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本さんが望まればそれに応じて飲み物を出したり、おやつも義歯を装着されてない方には刻んだり、軟らかい物を出すようにしている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を決めその人の排泄のパターンに応じて声かけを行ったり、本人さんの意思を尊重して行っている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今の所毎日入浴を希望する入居者さんもない為曜日を決めて入浴している、急がせる事無くゆっくり入浴してもらっている。	○	今のスタッフの確保だけでは時間や曜日を決めていないと介助は難しい問題です、がなるべく取り組めるように努めたいと思う
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後、休んでもらったり、その時々に合わせて休息をしてもらえる環境を作っている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の趣味に応じて楽しんでもらったり、スタッフと共に食材の買出しなどに同行して貰っている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを家族より預かり本人さんが欲しいものを一緒に買いに行ったりしている。今の所お金を所持している入居者さんはいない	○	認知も介護度も進んでくるとお金の所持は難しい様に思われる所がありますが介護の軽い方が入所された場合取り組めるように努めたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行が安定されている方は買い物に同行してもらったり、お天気の良いときには散歩等に出かけています、季節に応じてお弁当等を持って戸外の景色を見に出かけています。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人さんが好きな花市に出かけたり、家族の協力の下外出や外泊等行っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の家族との関係がそれぞれに微妙な状態の違いが有る事を前提とし万一の緊急の連絡を除きあらかじめ入居者と家族の希望を聞いておき連絡に役立てている。月1回の連絡時に必要があれば写真資料をつけ報告している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者同士の信頼や理解を深める為趣味の書道や絵の作品など日常目につく廊下、リビング等にはりだし面会者等に見てもらう工夫をし入居生活が努めて快適になるようホーム全体の雰囲気作りをしている。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の危険を失くす為に必要最小限の防止策を取るが出来るだけ拘束しない方向に努める。	△	身体拘束はできるだけ避けて行きたい方向で検討しているが、本人さんの身の安全を考えるとやむおえない時もある。転倒の危険があり本人さん自身に危険の把握が出来ていない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者に対する基本的行動の自由として居室、玄関等鍵をかけない様にし見守り、声かけを行っている。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の所在は常に把握しながらプライバシーに配慮し声かけ見守りを行う。夜間帯にては常に時間毎の巡視及び見守りにて安全に努めている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理用具、薬品その他入居者が取り扱ううえで万一危険が予想される物は所定の安全な保管庫に必ずもどす事を全職員が実行する様にしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時、職員会議等で原因や防止策等を話しあい事故防止に努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度応急手当や初期対応の訓練を行っている。又緊急時はドクターに支援を仰ぐ。	○	これからは家族を交えて応急処置等の勉強会を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は定期的に行えている。	○	地震や水害等に対する非難場所等の確保が出来ていないので避難場所だけでも確認をしておきたい。
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	月に一度の職員会議にて、ケアプランの確認を行い又家族や本人の希望も出来る限り反映出来る様コミュニケーションを図る、変更に関しては二ヶ月に一度の運営推進会議で話し合う。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の方の通常のバイタル及び日常の様子を観察し、異常発見に努める。夜勤者より毎朝入居者の健康状態がドクターに報告され週1度の往診にても健康状態の把握に努めている。常にバイタルや排便の状態又気づいた様子等申し送りノートに書いている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常時服用している薬は誤薬がない様に注意し個人の1日分を服用ごとに小別にし、その都度スタッフが口答で日にちの確認と本人の名前を読み上げ内服している。又変更時には伝達ノートに記入し確認をしている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜等は良く火を通し海草やきのこ類を少しずつ献立に加え食物繊維が不足しないよう、又水分補給に十分注意する(起床時に冷たい牛乳を飲む) レクリエーション及び手伝いにも積極的に参加して頂き体を動かす様に努めている。排便状態をノートに記入し必要に応じて便通剤を内服している。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている、自分で出来る方には声かけを行い出来ない方にはスタッフが支援している。毎週土曜日はポリデントにて消毒を行っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリー、水分量、栄養バランスを考えながら対応され、毎月体重がチェックされている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	玄関に消毒液が置かれ、手を消毒し中へ入る様になっている。 食前には手洗いが徹底されている。 毎年予防接種が実施されている。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限、諸費期限が守られている。 布巾やまな板は漂白剤につけ除菌されている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りにプランターが置かれ違和感を感じさせぬようにされ、自由に出入り出来るようにされている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、トイレ、リビング廊下に季節感のあるものが配置され、リビング、廊下にソファが置かれてある。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居室があり、家具、生活用品が持ち込まれ、自由に出入りが出来る。リビングにはソファが置かれリラックス出来るようになっている。又リビング席にも数多くの席があり自由に移動し他の入居者の方と会話が出来る。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物が置かれ、安心して過ごせる様になっている、又冷暖房、加湿器が設置され心地良く過ごせるようされている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、リビング、廊下、トイレ等の換気を行い冷暖房の温度調整が行なわれている。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴槽、脱衣場、トイレに手すりが設置され、すべらない様に床が工夫されている(ジュウタン、スベリ止め) 室内、玄関には段差がなく車椅子でも自由に行き来出来るようにされている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ることはしてもらい、出来そうな事は一緒にして自立支援を行っている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回り、ベランダへ行けるようになっており、花壇、プランターを見て楽しんだり、草花の水やりが出来る、又ベンチへ座り日光浴が出来る。	○	

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。) 日々、おやつ(10時)の時にラジ体操、歌(CDをかけたり、一緒にうたったりしている)を皆さんに声かけして行っている。又声をかけ一人一人が入りやすい様雰囲気作りをしている。機能回復訓練としても出来なくなった事を無理にしたり(させたり)せず、家事の手伝い(食材の皮をむいたり、切ったり、パン粉つけ)新聞読み、個人的にその方の好きな事(絵画工作への参加、ビーズ、パズル等の作品完成したら、皆さんが集まる場所に飾っている)をして頂くよう日頃から何に感心があられるかを会話の中からヒントを得ようと努力している。又見つかったら少しずつして頂く様にしている。好きな事は集中力があり、長続きもするし、次回への楽しみにつながっていると思う。

尿失禁の多い方や少ない方、間に合わなくて粗相あった場合等、生活の中で多々あるが、朝からの下の清拭を毎日行っている、汚染の場合にも陰洗、清拭し不潔にならない様、パット交換し「お尻」に思いやりを持って職員一人一人があたっている。たまに反発される方もいらっしゃるのて間を置いて声かけをしている。